

令和7年砺波市教育委員会第11回定例会議事録

1 開会及び閉会に関する事項

開催日時 令和7年11月26日（水） 午前13時30分～午前15時00分
開催場所 砧波市役所 東別館会議室

2 教育長及び出席委員の氏名

白江 勉、林 克彦、齋藤 正樹、岩崎 納子、吉澤 めぐみ

3 会議に出席した者の氏名

安地 亮（事務局長）、幡谷 優（教育総務課長）、端谷 真奈美（こども課長）、野原 大輔（生涯学習・スポーツ課主幹）、北田 邦弘（小学校長会長）、森 明代（保育所・認定こども園代表）、田中 博晃（教育総務課主幹）、本田 いずみ（教育総務課庶務係主事）

4 会議に付した事項

（1）前回議事録の承認

（2）教育長報告

・事務局について（教育総務課、こども課、生涯学習・スポーツ課）

（3）議事

ア 議決事項

・議案第34号・・・砺波市議会の議決を経るべき議案について

イ 報告事項

・その他・・・教育関係機関所管事項について

（教育センター、小・中学校、保育所・認定こども園）

5 会議の要旨

教育長

令和7年砺波市教育委員会第11回定例会を開会いたします。

先日、ある小学校の校長先生から、「子供たちに育てられた教員です。」との言葉を伺いました。普通は教員が子供たちを育てています。ですが、私には嬉しい言葉です。つまり、子供たちが、学び方が身についてきて育ってきているため、前担任から学んだことをそのまま引き継いで学級がまわって、授業改善により主体的に学びを進めているため、教員も非常に活動しやすくなっているということです。昔は授業力のある教員が学級経営をした次の年に若い教員が入ると、学級崩壊を起こすことがよくありました。保護者も子供たちも、前の先生が良かった、前の先生だったらと言われました。これは、昔ながらの姿です。この姿が授業改善をしてきたことにより、このような言葉がついに出たことは、とても嬉しい話です。昔は教師が主語でやっていたことが、今、砺波市は子供が主語に変わってきたということです。そうおっしゃった校長先生以外の学校でも例があり、これは非常に望ましい例だと思っております。先生がいないこ

とは弊害が出ますが、良い意味で、自分たちで学習課程を回すことができるというのは、砺波市が目指している姿に小学校のほうは近づいてきたと思っております。昨日は庄東小学校へ市教委訪問に行ってまいりました。学校訪問に比べて教員や子供たちの普段の自然な姿を見ることができます。子供が自然に自分の学びを進めていて、教師も柔軟な表情でやることができておりました。明日の庄南小学校で、今年度の市教委訪問が終わりますが、こんな風に順調に進んでいると思います。関連して、庄西中学校の吹奏楽部では今年度4年連続で金賞を取りました。人数も減ってきている中でよく受賞したと思います。今年度もまた市長に表敬訪問に来られますが、行く前の激励会でも、生徒は自立した姿を見せていました。言葉に自分たちで進めている自信のようなものを感じ、顧問が変わってもそのように金賞を取れたということです。

また、先週は砺波南部小学校で、南部認定こども園の年長の子供たちと1年生の合同学習がありました。県教委の幼児教育センターの指導主事がおっしゃるには、県内では初めてのことだそうです。1年生の图画工作の学習に園の年長が一緒に混ざり、それぞれねらいは違うのですが、事前にすり合わせをしながら、体育館で空き箱を使った勉強をしました。グループがいくつかあり、真ん中にある色々な種類の空き箱を使って自分がイメージした作品を作る授業です。園児は自分の感性だけでくっつけようとするところ、1年生の子は、算数で形の勉強をしたりして、面と面をくっつけようとする概念の違いの中で授業をしているのですが、最後に校長室で園の先生と1年生の担任の先生の話を聞いたときに、年長の先生が、思い悩んでいる園の子供のところへ行って、一生懸命その思いを聞き取っているときに、そのうち隣にいた1年生の子が、年長の子に関わろうと近寄って來たので、自分はそこで自然に離れてその園の子と1年生の子が繋がるようにしたという言葉があつたり、1年生の担任は事前に非認知能力を意識して、もし困っている子供がいたら、自分はこうしたいということを書くようにしていたということが、今回のこの繋がりに役立っていたので、素晴らしいと思いました。それぞれ、教員が、自分がするのではなくて、子供たちが解決するように支援していくとはっきりと考えており、そのような保育士さんや先生たちが大変素晴らしい働きをしておられ感心した次第であります。

教育長

それでは、前回議事録の承認についてお諮りします。

教育委員

異議なし。

教育長

事務局各課から所管事業について報告を求めます。

教育総務課長

<総括的事項について報告・説明>

こども課長

<教育総務課所管分の事業について報告・説明>

生涯学習・スポーツ主幹

<こども課所管分の事業について報告・説明>

<生涯学習・スポーツ課所管分の事業について報告・説明>

教育長 岩崎教育委員	質疑はありますか。 生涯学習・スポーツ課所管の事業について、12月5日の砺波市スポーツ少年団の教頭先生と語る会について、これは子供たちは関係なく、スポーツ少年団のコーチと教頭先生との会ですよね。 はい、そのとおりです。
生涯学習・スポーツ主幹 教育長	議事に移ります。 議案第34号については補正予算案件及び条例改正案件であるため非公開としてよろしいでしょうか。
教育委員	意義なし。
教育長	この案件に関しては非公開とし、最後に提案いたします。
教育長	次に、教育関係機関からの報告を求めます。
教育センター所長	<教育センター所管事項について報告・説明>
小学校長会長	<小中学校所管事項について報告・説明>
保育所・認定こども園長代表	<保育所・認定こども園所管事項について報告・説明>
教育長	ご質問、ご意見はありますか。
齋藤教育委員	インフルエンザについて色々なところから声が聞こえてくるけれど、小学校や中学校はどのような様子かお聞きしたい。昔、コロナの時に、教員が罹患して、教員が足りなくなってしまったことがあります。教員でインフルエンザになった人はおられるのかと思いました。
小学校長会長	私が今把握している中では、庄川小学校が学年閉鎖、出町中学校が学級閉鎖をしております。出町小学校で言うと、インフルエンザに罹患した児童が全19名、ばらけた状態でおるのですが、学級閉鎖や学年閉鎖の段階にまでは至っていなく、学校医と相談しながら、できるだけ学年が交わらないような対策をしているところです。教員に関しては2名、1名はもう復帰しておりますが、もう1名は昨日から休んでおります。その間は他の先生に入っていたりして、先生がいないというところまでは至っていないと思われます。
吉澤教育委員	インフルエンザに連して、ご近所のお年寄りの方からはコロナに罹患したとも聞くのですが、若い人は聞かないで、コロナは子供たちにはどのようになっていますか。
小学校長会長 齋藤教育委員 小学校長会長 保育所・認定こども園長代表	あまり聞きません。いないことはないのですが。 学校では、マスクをするなどの指示はしているのですか。 基本的にはマスクをして活動をしましょうと呼びかけております。 こども園でのインフルエンザについて、罹患者は出てきております。やはり地域といいますか、小学校・中学校の兄弟から家庭内で感染が広まっていることもありますが、本園では1名だけ罹患している状態です。他の園では数名出ていると聞いております。こども園では、やはり小さいお子さんなので0歳児、1歳児等はマスクをすることが難しいこと、食事等でもやはりどうしても感染を防ぐことが難しいところがあるので、職員の方が、手洗いの徹底や机拭いたり消毒の徹底をしているところです。職員も同じように罹患するときは罹患するのですが、流行してきたときには部屋の換気などの感

染対策をして、自分自身が感染源にならないように気をつける、加えて集会などの集まる活動を控えて部屋で過ごすというように、考えながら対策をしております。

斎藤教育委員

教育センターで説明されたA I研修会について、私も同じ先生の研修会や体験を受けたのですが、自分で何を作りたいのかをはっきり考えながらA Iに指示を出さないといけませんでした。学校教育にA Iを導入することに懐疑的な見方もありますが、これは避けて通ることのできない技術で、必要になってくるものだと思います。それには、機械から返ってきた情報を鵜呑みにするのではなく、情報を疑って掛からないといけないこと、検証しないといけないこと、事前に考えていいかないといけないことがあると思いました。

教育センター所長

他市が集まる研修会でも、どの市もA Iを取り入れていかないといけないという風になってきております。ガイドラインを作るなど、どうやって段階を踏んで取り入れるかに差があるようです。良さも悪さもあり、使い分けないといけないと思います。

教育長

子供たちは家で使っている子がたくさんいると思うので、情報を吟味する力がまだ弱い子供たちがそれに流されていくことが非常に危険です。学校教育の中でいち早く砺波市全体で取り上げて情報共有しながらやっていくことで、よりA Iの怖さと良さを体験していきたいと思います。そのためには、ハルシネーション、間違いが必ずあるということを徹底的にカリキュラムの中で経験していき、A Iは絶対では無いと、世の中には間違った情報がいっぱいあるので、その情報の中から正しい情報を自分なりに吟味する、そんな子供たちに育っていってほしいと考えております。

岩崎教育委員

以前、娘が小学五年生時の保護者参観日に、インターネット検索の仕方を授業で行っていました。先生の出された質問を子供達が検索していたのですが、正しい答えは、検索画面の1番上に出てきたものではなく、2番目3番目に出てきたものでした。子供も1番上に出てくるものが、いつも正しいわけではないと言うことに驚いていましたが、親もみな驚いていたのが印象的でした。

吉澤教育委員

最近、子供の相談相手の1位というのが、親や友達ではなくて、チャットG P Tだと出でていて驚いたのですが、A Iが慰めてくれ、そして秘密を漏らさない。ニュースではチャットG P Tと結婚したという人や恋人にしたという人も出でていて、大人は機械だと理解できると思うのですが、子供たちはのめり込むとわかりません。答えは統計的に出たもので、あくまでも機械で心には寄り添っていないとわからないと、アメリカでも子供がチャットG P Tの答えによって自殺して訴訟が起きたようなので、日本もそんな風に子供たちになってほくないと思って、小さいうちからあくまでも機械だと十分に分かってもらうように教育しないといけないと思いました。

斎藤教育委員

A I研修会でもA Iの使い道に、相談の項目が20%と高い割合で活用されているようでした。

教育長 先ほど非公開とした議事に移ります。
教育総務課長 議案第34号について説明を求めます。
教育長 説明＜議案第34号 砺波市議会の議決を経るべき議案について＞
教育委員 質疑はありますか。
教育長 質疑なし。
教育委員 議決してよろしいか。
教育長 全員賛成。
教育長 それでは次回以降の開催日について。
教育総務課長 次回、令和7年第12回定例会を令和7年12月19日（金）午後
15時30分から開催いたします。また、令和8年第1回定例会に
について、令和8年1月23日（金）午後16時00分から開催した
いと考えております。いずれも場所はこの東別館会議室で行うこと
といたします。
教育長 これで令和7年砺波市教育委員会第11回定例会を閉会いたしま
す。